

令和9年度4月入学

帯広畜産大学大学院畜産学研究科
畜産科学専攻博士前期課程学生募集要項
(国際協力特別選抜)

今後の社会状況によっては、やむを得ず内容を変更する場合があります。

変更がある場合は本学ウェブサイトに掲載しますので、試験当日まで定期的に確認してください。（受験票送付後、試験日前日までにお知らせを掲載する場合があります）

トップページ上のメニュー「入試情報」内の「入試に関するお知らせ」

URL : <https://www.obihiro.ac.jp/nyushi>



「入試に関するお知らせ」QRコード：

試 験 日 程

出願資格審査申請期限 (該当者のみ)	令和8年11月20日 (金)	
出願期間	令和8年12月14日 (月) ～令和8年12月17日 (木)	
試験実施日	面 接	令和9年1月28日 (木)
合格発表日	令和9年2月10日 (水)	
入学手続期間	令和9年3月8日 (月) ～令和9年3月23日 (火)	

目 次

1 趣 旨	1
2 募 集 人 員	1
3 出願資格・要件	2
4 出願資格の認定（書類審査）	3
5 障がい等のある志願者との事前相談	3
6 出 願 手 続	4
7 入学者選抜方法	5
8 試験期日及び試験場	5
9 合 格 発 表	5
10 入 学 手 続	6
11 個人情報の取扱いについて	6
◎ 帯広畜産大学大学院畜産学研究科畜産科学専攻（博士前期課程）案内	7
◎ 出願書類の提出・問い合わせ先	18

1 趣 旨

本学では、獣医農畜産分野で我が国の国際協力に資する人材を育成するために、海外でのボランティア活動や国際協力の実務を経験した者に門戸を開き、本学が展開する高度な専門職業人教育を提供すべく、大学院畜産学研究科に国際協力特別選抜を設置し、学生を募集します。

2 募 集 人 員

専 攻・課 程	コ ー ス	募集人員
畜産科学専攻・博士前期課程	動物医科学コース 家畜生産科学コース 環境生態学コース 食品科学コース 農業経済学コース 農業環境工学コース 植物生産科学コース	若 干 人

◎特別支援制度について

実務経験を有する国際協力に意識の高い人材の輩出及び国際協力に資する人材育成サイクルの確立を目指すため、入学者には、授業料相当額（月額5万円）の奨学金を貸与します。

奨学金の貸与は、2年間を限度とし、1年後の成績等の総合評価によっては貸与を停止する場合があります。

なお、博士前期課程修了後、国際協力関係の業務に従事した場合は、貸与した奨学金の返還を免除します。

3 出願資格・要件

次の①及び②に該当する者

- ① 令和9年3月までに、2年以上の海外ボランティア活動又は国際協力経験がある日本国籍を有する者
【注1】
- ② 次のi～ixのいずれかに該当する者
 - i 令和7年3月以前に大学を卒業した者
 - ii 令和7年3月以前に学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
 - iii 令和7年3月以前に外国において学校教育における16年の課程を修了した者
 - iv 令和7年3月以前に外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
 - v 令和7年3月以前に我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者
 - vi 令和7年3月以前に外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む）により、学士の学位に相当する学位を授与された者【注2】
 - vii 令和7年3月以前に専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - viii 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
 - ix 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で22歳に達した者【注3】

【注1】： 新型コロナウイルス感染症の影響により活動期間が短縮された場合は、1年以上あれば可とします。

【注2】： 大学教育修了までの学校教育の課程が16年に満たない国の大学卒業者で、出願資格②viに該当しない場合は、出願資格②ixの個別の入学資格審査が必要となります。

【注3】： ②ixで出願する者は、「4 出願資格の認定（書類審査）」を参照してください。

4 出願資格の認定（書類審査）

上記「3 出願資格・要件」の②ixで出願しようとする者は、出願に先立って出願資格審査を行いますので、下記の提出書類を提出期限までに提出してください。

なお、郵送の場合は必ず書留速達としてください。

提出書類	(1) 出願資格認定申請書 ※ (2) 最終学歴の卒業（修了）証明書 (3) 成績証明書（履修状況を証明する書類） (4) 研究歴証明書（研究期間，研究内容は必ず記載） (5) 研究成果資料
提出期限	令和8年11月20日（金）
提出・問合せ先	〒080-8555 北海道帯広市稲田町西2線11番地 帯広畜産大学 入試課入学試験係

※ 出願資格認定申請書の様式は、本学ホームページに掲載しています。

帯広畜産大学 入試情報 <https://www.obihiro.ac.jp/grad-adm>

上記ウェブサイト内の「大学院入試」をご覧ください。

5 障がい等のある志願者との事前相談

本学に入学を志願する者で、障がい等のある者については、受験上及び修学上特別な配慮を必要とすることがありますので、下記の期限までに事前相談を行ってください（日常生活において、ごく普通に使用されている補聴器、松葉杖、車椅子等を使用して受験する場合も試験場設定や他の特別な配慮との関係から必ず事前に相談してください）。

提出書類	(1) 事前相談書 ※ (2) 医師の診断書 (3) その他障がいの状況がわかる書類（障害者手帳の写し等）
提出期限	令和8年12月17日（木）
提出・問合せ先	〒080-8555 北海道帯広市稲田町西2線11番地 帯広畜産大学 入試課入学試験係

※ 事前相談書の様式は、本学ホームページに掲載しています。

帯広畜産大学 入試情報 <https://www.obihiro.ac.jp/handicapped>

上記ウェブサイト内の「障がい等のある志願者との事前相談」をご覧ください。

6 出 願 手 続

(1) 出 願 書 類 等

出 願 書 類 等		摘 要
1	入学志願票 受 験 票 写 真 票	<p>*印欄以外の所定の欄はすべて記入してください。</p> <p>写真（縦4 cm横3 cm）は、出願前3 か月以内に撮影した上半身・無帽・正面向きのもので、裏面に志望コース名・氏名を記入の上、写真票の所定の欄に貼ってください（受験時に眼鏡を使用する者は、必ず眼鏡を着用して撮影したものにしてください）。</p>
2	検定料の「振替払込受付証明書（お客さま用）」（日附印が押印されたもの）	<p>検定料（30,000円）を払い込み後、出願書類の所定の場所に貼って提出してください。</p> <p>納入方法は、4 ページの(2)を参照してください。</p>
3	研 究 計 画 書	大学院において行おうとする研究内容を記載してください。作成要領は 5 ページの(3)を参照してください。
4	卒 業 証 明 書	※本学の卒業者は提出不要
5	成 績 証 明 書	<p>厳封したものを提出してください。</p> <p>※本学の卒業者は提出不要</p>
6	あ て 名 票 (合格通知書送付用)	本学所定の用紙に郵便番号・住所・氏名を明記したものを提出してください。
7	受験票送付用封筒	本学所定の封筒(小)に郵便番号・住所・氏名を明記し 410 円分の切手を貼ったものを提出してください
8	推 薦 書	海外ボランティア又は国際協力活動などを実際に従事した機関・団体からの推薦書（任意様式）
9	国際協力活動期間 証 明 書	海外ボランティア又は国際協力活動などを実際に従事した機関・団体からの証明書（任意様式）
10	海外活動報告書	海外ボランティア又は国際協力活動などの内容、その他特筆できる事項について A4 版用紙 2 枚（任意様式）にまとめること。

注： 出願書類のうち英語以外の外国語で発行された書類については、日本語訳を添付してください。

(2) 検定料の納入方法

本学所定の払込取扱票により、払込期間内に最寄りの郵便局・ゆうちょ銀行から払い込んでください。

なお、郵便局・ゆうちょ銀行の窓口取扱いは通常平日は 16 時まで、土・日は休業ですのでご注意ください。

検定料払込期間 ： 令和8年12月7日（月）～令和8年12月17日（木）

注 1： 受理した検定料は返還できません。ただし、次の場合に限り、申出により検定料相当額を返還します。

ア) 出願しなかった場合

イ) 出願書類が受理されなかった場合

ウ) 二重に払い込んだ場合

※ 返還に関する問い合わせ先 帯広畜産大学 入試課入学試験係 TEL 0155-49-5321

注 2： 検定料が払い込まれていない場合や「振替払込受付証明書」に郵便局・ゆうちょ銀行の日附印が押印されていない場合は出願を受理できません。

(3) 研究計画書の作成要領

大学院で実施する研究について、主指導を希望する教員と必ず連絡を取って相談の上、作成してください。

日本語の場合は1,000字以内、英語の場合はA4版用紙で1枚以内とします。

研究計画書には以下の3つの内容を明確に記すこと。

1. 研究の背景と目的（詳細に記すこと）
2. 研究の方法概略（技法等の詳細な記述は必要なく、研究全体の流れを簡潔に記すこと）
3. 予想される研究結果（詳細な記述は必要なく、研究目的に沿って簡潔に記すこと）

研究計画書の様式は、本学ホームページに掲載しています。

帯広畜産大学 入試情報 <https://www.obihiro.ac.jp/grad-adm>

上記ウェブサイト内の「大学院」のページをご覧ください。

(4) 出願方法及び出願期間

出願書類は、一括して本学所定の封筒（大）若しくは角型2号の封筒に入れ、持参又は郵送してください。

① 持参の場合

受付時間は、8時30分から17時までとします。ただし、土・日を除きます。

② 郵送の場合

必ず「書留速達」扱いとしてください。出願期間最終日の17時必着とします。

なお、出願期限後に到着した出願書類等は受理しないので、郵便事情等を考慮して余裕を持って発送してください。

出 願 期 間 ： 令和8年12月14日（月）～令和8年12月17日（木）（最終日17時必着）

(5) 出願書類等の提出先

帯広畜産大学 入試課入学試験係

〒080-8555 北海道帯広市稲田町西2線11番地

なお、出願書類等は、返還することができません。

7 入学者選抜方法

面接（推薦書、成績証明書、研究計画書及び海外活動報告書の内容を考慮します）により行います。

ただし、海外勤務の事情で**面接日に面接ができない者については、令和8年11月13日（金）までに申し出願**します。

本学で、別途協議のうえ、面接方法についてご連絡しますので、連絡先（電話、FAX、Eメールアドレス）を併せてお知らせ願います。

8 試験期日及び試験場

実 施 期 日	科 目 等	時 間	試 験 場
令和9年1月28日（木）	面 接	10:00～	帯広畜産大学

※ 試験場配置図は令和9年1月26日（火）を目途に本学ホームページに掲載しますので、そちらで確認してください。

9 合 格 発 表

(1) **令和9年2月10日（水）10時**

本学ホームページに合格者の受験番号を発表します（ホームページアドレスは18ページ参照）。

(2) 合格者には、合格通知書及び入学手続きに必要な書類を送付します。

(3) 電話等による可否に関する問い合わせには、応じられません。

10 入 学 手 続

(1) 入学手続期間

令和9年3月8日（月）～令和9年3月23日（火）（最終日17時必着）

(2) 入学料 282,000 円

(3) その他の経費

学生教育研究災害傷害保険料等（正課・課外活動中における不慮の災害事故による学生の傷害に対する救済措置） 2,470 円

授業料について（参考）

前期分 267,900 円 後期分 267,900 円

※上記の納付金は現行額であり，入学時及び在学中に学生納付金の改定が行われた場合には，改定時から新たな納付金が適用されます。

※納入期限は，前期分が5月末日，後期分については11月末日です。

11 個人情報の取扱いについて

- (1) 本学が保有する個人情報は，「個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに，「北海道国立大学機構保有個人情報管理規程」に基づき，保護に万全を期しています。
- (2) 出願時にお知らせいただいた氏名，住所等の個人情報については，入学者選抜，合格発表，入学手続，入学者選抜方法等における調査・研究及びこれらに付随する業務を行うために利用します。
- (3) 入学者選抜で得られた試験成績の個人情報は，入学者選抜及び入学者選抜方法等における調査・研究を行うために利用します。
- (4) 上記(2)及び(3)の個人情報のうち，合格者のみ，入学後の教務関係（修学指導等），学生支援関係（奨学金申請・授業料免除申請等）に関する業務及びこれらに付随する業務を行うために利用します。なお，合格者には入学手続時に改めてお知らせします。

帯広畜産大学大学院畜産学研究科畜産科学専攻（博士前期課程）案内

本学のミッションは、知の創造と実践によって実学の学風を発展させ、「食を支え、暮らしを守る」人材の育成を通じて、地域および国際社会へ貢献することです。

このような理念・目標のもとに、教育ポリシー（方針）を以下のように定めています。

1 大学院畜産学研究科畜産科学専攻（博士前期課程）の教育ポリシー（方針）

○アドミッションポリシー（入学者受入方針）

帯広畜産大学大学院畜産学研究科畜産科学専攻（博士前期課程）では、「食の安全確保」をはじめとする農畜産学に関する課題解決能力と幅広い見識を備えた人材を育成するため、以下のような人を学生として求めています。そのために、入学試験では専門と語学に関する筆記試験と研究計画・能力を評価する口述試験を実施します。

1. 国際的な視野を持って行動でき、農畜産学に関する高度専門職業人を目指す人
2. 各コースの特定分野に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人
3. 各コースで自ら研究計画を立案できる基礎的知識・技術を身につけている人
4. 獣医・農畜産融合の視点から、食の安全確保・生産性向上・環境保全に関する課題に高い関心を持ち、それらの課題解決に積極的に取り組みたい人

○入学者選抜の基本方針

1. 一般選抜
学力検査（英語）で、獣医学及び農畜産学分野に関する英文の読解力を評価します。学力検査（専門科目）で、専門分野の学力を評価します。面接で、出願書類等の審査の結果を考慮し、コミュニケーション能力及び専門分野の知識と意欲を評価します。
2. 社会人特別選抜
面接で、出願書類等の結果を考慮し、コミュニケーション能力及び専門分野の知識と意欲を評価します。
3. 外国人留学生特別選抜
学力検査（英語）で、TOEIC、TOEFL 又は IELTS の成績に基づいて読解力を評価します。面接で、出願書類等の審査の結果を考慮し、コミュニケーション能力及び専門分野の知識と意欲を評価します。
4. 国際協力特別選抜
面接で、出願書類等の審査の結果を考慮し、コミュニケーション能力及び専門分野の知識と意欲を評価します。

○ディプロマポリシー（学位授与方針）

帯広畜産大学大学院畜産学研究科畜産科学専攻（博士前期課程）では、教育課程で定められた授業科目を履修して所定の修了要件単位を修得し、動物医科学、家畜生産科学、環境生態学、食品科学、農業経済学、農業環境工学、植物生産科学等の農畜産学分野及びその学際分野における最新の知識と技術を駆使し、「食の安全確保」をはじめとする農畜産学に関する問題解決型の高度な研究能力と幅広い見識を備え、以下の能力を身につけた人に学位を授与します。

1. 倫理観：社会通念上や専門家として相応しい倫理観、道徳観を身につけている人
2. 課題設定・解決力：グローバル化を背景とした生命・食料・環境の分野の課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人
3. 表現力・コミュニケーション能力：国際感覚を備えた思考・判断の過程を説明するために必要なプレゼンテーション能力を身につけている人
4. 専門的知識・技術：獣医・農畜産融合の視点から、本専攻に配置された各コースに関する高度専門職業人としての知識と技術を身につけている、または同コースの課題に関する研究者としての基礎的な能力を身につけている人

○カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

帯広畜産大学大学院畜産学研究科畜産科学専攻（博士前期課程）ディプロマ・ポリシーに掲げた知識・技能等を修得させるために、以下の方針に沿って教育課程を編成します。

I. 教育内容

1. 倫理観の養成：研究者としての倫理観を養成します。
2. 課題設定・解決能力の養成：研究指導を通じて論理的思考能力を磨き、食の安全確保・生産性向上・環境保全に関する課題を設定し、解決する能力を養成します。
3. 国際感覚を備えた実践力の養成：グローバル社会で活躍するための英語力を修得し、英語によるプレゼンテーション能力や論文作成能力を養成します。
4. 豊かな教養と幅広い学術基盤の形成：共通教養科目により豊かな教養を身につけるとともに、コース専門科目により高度な専門性を修得します。さらに、他コース専門科目を選択科目とすることで、専門性の高い知識を分野横断的に修得します。

II. 教育方法

1. 能動的学習を促進し、論理的思考能力を磨くことで課題発見力・課題解決力を高めるアクティブラーニングを行います。
2. 英語によるプレゼンテーションや論文作成等により身につけた表現力・コミュニケーション能力を、インターンシップ、海外演習、研究発表等において実践します。
3. 一部科目においては、eラーニングを取り入れることにより、最新の情報をふまえた学習をいつでもどこでも行える体制とします。

III. 学修成果の評価の在り方

1. 授業科目における評価方法及び基準について、各科目のシラバス及び成績評価基準に明記します。
2. 単位審査、進級審査、修了審査の方針については、別にアセスメント・ポリシー及び学位論文評価基準を定めて公表します。

○アセスメント・ポリシー（学修成果の評価方針）

帯広畜産大学大学院畜産学研究科では、ディプロマ・ポリシー（DP）に掲げる能力・資質の修得状況、カリキュラム・ポリシーに則した学修状況について、以下の3つの審査方法により評価を行います。

1. 単位審査

各科目の単位取得に係る学修の成果は、以下について審査します。

- ・授業への出席やレポート・課題の提出等、各科目で必要とする学修が行われたか
- ・各科目で設定された、学修到達目標が達成されたか

2. 進級審査 学生の進級に係る学修の成果は、以下について審査します。

- ・進級試験において、カリキュラム・ポリシーに従い学修が進んでいると確認されたか
- ・進捗状況審査会または中間審査会において、研究の進捗状況が、各年次で達成すべき成果に到達していると確認されたか

3. 修了審査 学生の修了に係る学修の成果は、以下について審査します。

- ・最終試験において、ディプロマ・ポリシーが達成されたと確認された。
- ・学位論文審査会または課題研究審査会において、学位論文もしくは課題研究成果が、学位を得るべき内容であると確認されたか

2 各コースの教育ポリシー（方針）

動物医科学コース

○養成する人材像

獣医師養成以外の学士課程を卒業した学生を受け入れ、基礎生物学や農畜産学の知識を基に、基礎動物医科学、動物病態学、動物感染症学、病因制御学、さらに動物臨床科学に関する知識を提供し、動物に関する様々な知識を社会に還元できる高度専門職業人を養成する。

○アドミッションポリシー（入学者受入方針）

以下のような人材を求めます。

1. 基礎動物医科学、動物病態学、動物感染症学、病因制御学、動物臨床科学に関する高度な知識及び技術及

び研究能力を身につけ、動物医科学的観点から社会への貢献を目指す人

2. 基礎生物学や農畜産学に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人
3. 基礎生物学に関する基礎的知識と基本的技術を踏まえて、動物医科学分野で自ら研究計画を立案できる人
4. 基礎生物学や農畜産学の諸問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明できる人

○ディプロマポリシー（学位授与方針）

以下の能力を備えた人に学位を授与します。

1. 倫理観：動物医科学の知識や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観・道徳観を身につけている人
2. 課題設定・解決力：動物医科学分野における課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人
3. 表現力・コミュニケーション能力：他者の思想や意見を尊重した上で、動物医科学分野について、自身の思想や意見を的確に表現し、意見を交わすためのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている人
4. 専門的知識・技術：基礎生物学や農畜産学の知識を土台に、基礎動物医科学、動物病態学、動物感染症学、病因制御学、さらに動物臨床科学等動物医科学に関する幅広い専門知識とそれを社会において応用、発展させていく能力を身につけている人

○カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

伴侶動物、産業動物、実験動物、野生動物といった様々な動物を対象として、基礎、病態、感染症、病因制御、動物臨床科学等関連の動物医科学に関する幅広い分野の専門知識を修得します。

家畜生産科学コース

○養成する人材像

家畜をはじめとする動物の生体機能、育種、繁殖、栄養、管理等に関する広範かつ体系的な知識や技術を身につけ、畜産・生命科学分野の様々な問題に柔軟に対応できる高度専門職業人、または畜産・生命科学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を養成する。

○アドミッションポリシー（入学者受入方針）

以下のような人材を求めます。

1. 家畜やその生産管理に関する高度な知識と技術、研究能力を身につけ、生命科学や畜産学の観点から社会貢献を目指す人
2. 家畜生産科学に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人
3. 家畜やその生産管理に関する高度な知識と技術、研究能力を身につけ、家畜生産科学分野で自ら研究計画を立案できる人
4. 家畜やその生産管理に関する諸問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明できる人

○ディプロマポリシー（学位授与方針）

以下の能力を備えた人に学位を授与します。

1. 倫理観：家畜生産科学の知識や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観・道徳観を身につけている人
2. 課題設定・解決力：畜産や生命科学分野における課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人
3. 表現力・コミュニケーション能力：他者の思想や意見を尊重した上で、家畜生産科学分野について、自身の思想や意見を的確に表現し、意見を交わすためのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている人
4. 専門的知識・技術：家畜の生理や行動を理解しそれを遺伝的改良や生産性の向上へと繋げる基礎から応用までの体系的な知識と技術を身につけている人

○カリキュラムポリシー（教育課程編成方針） 畜産を従来の生産学的視点だけではなく動物福祉や生態系への配慮等を含めた広い視点で捉え、家畜の生理や行動を理解しそれを遺伝的改良や生産性の向上へと繋げる基礎から応用までの最新の知識と技術を修得します。

環境生態学コース

○養成する人材像

農畜産環境とそれを取り巻く自然環境に関する広範かつ体系的な知識を身につけ環境の保全・管理・利用に関する様々な問題に柔軟に対応できる高度専門職業人、または環境生態学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を養成する。

○アドミッションポリシー（入学者受入方針）

以下のような人材を求めます。

1. 農畜産環境及び自然環境の保全と管理に関する幅広い知識、技術及び研究能力を身につけ、生態学的及び環境科学的観点から社会への貢献を目指す人
2. 環境生態学に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人
3. 農畜産環境及び自然環境の保全と管理の知識、技術及び研究能力を身につけ、環境生態学分野で自ら研究計画を立案できる人
4. 農畜産環境及び自然環境の保全と管理の諸問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明できる人

○ディプロマポリシー（学位授与方針）

以下の能力を備えた人に学位を授与します。

1. 倫理観：環境生態学の知識や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観・道徳観を身につけている人
2. 課題設定・解決力：環境生態学における課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人
3. 表現力・コミュニケーション能力：他者の思想や意見を尊重した上で、環境生態学分野について自身の思想や意見を的確に表現し、意見を交わすためのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている人
4. 専門的知識・技術：環境を構成する様々な生命体の役割と機能、相互作用、及び生態系の保全・管理・利用に関する包括的かつ体系的な知識と技術を身につけている人

○カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

農畜産環境とそれを取りまく自然環境を保護から利用まで含めた広い視点で捉え、環境を構成する動物、植物、昆虫、微生物の役割と機能、相互作用、農畜産とのかかわり、そして生態系の保全に関する最新の知識を修得します。

食品科学コース

○養成する人材像

農畜産物を原料とした食品の製造・加工及びその機能性・安全性に関する広範かつ最新の知見や技術を提供するとともに、演習や研究活動を通じた専門教育を行うことにより、食品業界をはじめとしてバイオ産業においても活躍できる高度専門職業人、または食品科学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を養成する。

○アドミッションポリシー（入学受入方針）

以下のような人材を求めます。

1. 農畜産物を原料とした食品の製造・加工及びこれらの機能性・安全性に関する高度な知識及び技術及び研究能力を身につけ、食品科学的観点から社会への貢献を目指す人
2. 食品科学に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人
3. 農畜産物の加工・利用に関する高度な技術や食品のもつ様々な機能性に関する知識を踏まえて、食品科学分野で自ら研究計画を立案できる人
4. 食品の製造・加工及びこれらの機能性・安全性の諸問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明できる人

○ディプロマポリシー（学位授与方針）

以下の能力を備えた人に学位を授与します。

1. 倫理観：食品科学の知識や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観・道徳観を身につけている人
2. 課題設定・解決力：食品科学における課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人
3. 表現力・コミュニケーション能力：他者の思想や意見を尊重した上で、食品科学分野について、自身の思想や意見を的確に表現し、意見を交わすためのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている人
4. 専門的知識・技術：農畜産物の加工・利用及びそれらの機能性・安全性についての高度な知識と技術及び応用力を身につけている人

○カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

農畜産物を原料とした食品の製造・加工及びこれらの機能性・安全性に関する分子レベルから工業生産レベルまでの広範かつ最新の知識と技術を修得します。

農業経済学コース

○養成する人材像

農業経済を中心とする社会科学的視点から俯瞰できるような専門教育を行うことにより、フードシステムにおける特定課題の解決に向けた実践的方策を提示することができる高度専門職業人、または農業経済学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を養成する。

○アドミッションポリシー（入学者受入方針）

以下のような人材を求めます。

1. 食料生産・流通・消費に関わる農業経済学や経営学の幅広い、高度な知識と技術を身につけ、農業経済学的観点から社会への貢献を目指す人
2. 農業経済学に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人
3. 食料生産・流通・消費に関わる農業経済学や経営学の基礎的な知識と基本的な技術を踏まえて、農業経済学分野で自ら研究計画を立案できる人
4. 農業経済学及び経営学の諸問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明できる人

○ディプロマポリシー（学位授与方針）

以下の能力を備えた人に学位を授与します。

1. 倫理観：農業経済学の知識や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観・道徳観を身につけている人
2. 課題設定・解決力：農業経済学における課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人
3. 表現力・コミュニケーション能力：他者の思想や意見を尊重した上で、農業経済学分野について、自身の思想や意見を的確に表現し、意見を交わすためのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている人
4. 専門的知識・技術：地域の資源を利用し、食料の生産性向上や食の安全を支えるための農業経済に関する高度な知識と技術を身につけている人

○カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

わが国の食料基地と位置づけられる北海道十勝地域の資源を活用し、持続可能な物質循環や地域資源を踏まえ、食料生産・流通・消費に関わる農業経済学や農業経営学に関する分野の高度な知識と技術を修得します。

農業環境工学コース

○養成する人材像

農業環境工学の理論と実践に基づく先進的な農業生産技術と環境保全を両立させるための技術体系に関する専門教育を行うことにより、農業農村工学分野や農業機械システム工学分野で活躍できる高度職業専門人、または農業農村工学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を養成する。

○アドミッションポリシー（入学者受入方針）

以下のような人材を求めます。

1. 農業工学的素養を基礎として、環境と調和した生産技術改善と地域環境保全の知識を身につけ、農業環境工学的観点から社会への貢献を目指す人
2. 農業環境工学に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人
3. 生産技術改善と地域環境保全に関する基礎的な知識と基本的な技術を踏まえて、農業環境工学分野で自ら研究計画を立案できる人
4. 農業工学的素養を基礎として生産技術と地域環境の諸問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明できる人

○ディプロマポリシー（学位授与方針）

以下の能力を備えた人に学位を授与します。

1. 倫理観：農業環境工学の知識や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観・道徳観を身につけている人
2. 課題設定・解決力：農業環境工学における課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人
3. 表現力・コミュニケーション能力：他者の思想や意見を尊重した上で、農業環境工学分野について自身の思想や意見を的確に表現し、意見を交わすためのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている人
4. 専門的知識・技術：地域の資源を利用し、食料の生産性向上を支えるための生産技術や環境制御に関する高度な知識と技術を身につけている人

○カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

農村環境の保全と管理、持続可能な食料生産の観点から、農村の水・土環境の整備や自然との調和の役割、農業機械の先進的技術や生物資源の高度管理技術を理解し、農業生産を支える最新の農業環境工学に関する知識と技術を修得します。

植物生産科学コース

○養成する人材像

作物生産を支える土壌管理から畑作物と飼料作物の育種と栽培、病虫害管理及び草地利用までについて、ラボワークでの基礎からフィールドワークでの実証に至る専門教育を行うことにより、農畜産業の基盤づくりを担える高度専門職業人、または植物生産科学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を養成

する。

○アドミッションポリシー（入学者受入方針）

以下のような人材を求めます。

1. 植物の生理、生態、遺伝や土壌に関する高度な知識をもとにした植物生産の量的・質的向上の高度な知識及び技術及び研究能力を身につけ、植物生産科学的観点から社会への貢献を目指す人
2. 植物生産科学に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人
3. 栽培植物の改良や生産と土壌及び病害虫に関する知識や技術を踏まえて、植物生産科学分野で自ら研究計画を立案できる人
4. 植物生産の量的・質的向上の諸問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明できる人

○ディプロマポリシー（学位授与方針）

以下の能力を備えた人に学位を授与します。

1. 倫理観：植物生産科学の知識や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観・道徳観を身につけている人
2. 課題設定・解決力：植物生産科学における課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人
3. 表現力・コミュニケーション能力：他者の思想や意見を尊重した上で、植物生産科学分野について、自身の思想や意見を的確に表現し、意見を交わすためのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている人
4. 専門的知識・技術：地域の資源を利用し、食料の生産性向上を支えるための食料生産原理や生産技術に関する高度な知識と技術を身につけている人

○カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

植物生産の量的・質的向上を達成するために必要な植物の生理と生態、遺伝と育種、作物保護、土壌に関する高度な知識と技術を修得します。

3 畜産衛生学位プログラムについて

畜産衛生学位プログラムとは、農作物・食品等の国境を越えた流通拡大を背景として企業等に求められている国際安全衛生基準の取得・維持に対応できる人材を育成するため、本学がこれまで旧畜産衛生学専攻において実践してきた「食の安全確保」に関する高度な専門教育を、全コースの学生が履修可能な学位プログラムとして発展させたものです。

このプログラムでは、農畜産物をはじめとする食の安全衛生に関するマネジメントシステム等の専門教育を国際基準に適応した実習環境において行うことにより、優れた実践力及び応用力を身につけた畜産衛生の専門家を養成します。

本プログラム受講者は、博士前期課程の共通必修科目、共通選択科目を履修の上、プログラム必修科目・選択必修科目・「畜産衛生課題研究」（企業等研修）ないし所属コースの「特別研究Ⅱ」を履修する必要があります。

注1：「畜産衛生課題研究」（4単位）とは、修士論文に代わり、6週間以上の企業研修等を通じて課題研究を行うものです。本プログラム受講者で修士論文を作成する場合は、所属コースの「特別研究Ⅱ」（4単位）を履修します。

注2：本プログラム受講者は、1年次終了時に修士（農学）または修士（畜産衛生学）の学位選択を行います。

畜産衛生学位プログラム

○養成する人材像

HACCP システム専門家教育、六次産業化を目指した新加工技術の開発・製品開発に関する教育を実践的かつ体系的に行うことで、食品安全マネジメントシステムに関する知識及び技術を修得し、企業等と連携して、その知識・技術を現場へ応用できる人材を育成する。

○ディプロマポリシー（学位授与方針）

以下の能力を備えた人に学位を授与します。

畜産物をはじめとする食品の国際安全衛生基準での衛生管理・品質保証に関する高度かつ総合的な知識と技術を有し、優れた実践力及び応用力を身につけている人

○カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

国際安全衛生基準の食品安全マネジメントシステムに関する知識及び技術を実践的かつ体系的に学び、企業等と連携してそれらの知識・技術を現場へ応用する能力を養成します。

4 課程の修了及び学位の授与

本学大学院畜産学研究科畜産科学専攻（博士前期課程）に2年以上在学して所定の単位（通常のコースの場合は30単位以上、畜産衛生学位プログラムの場合は32単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は成果報告の審査及び関連科目の最終試験に合格した者を課程の修了者とし、コースに応じて下記の学位を授与します。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、研究科に1年以上在学すれば足りるものとします。

専攻名	コース名	学位
畜産科学専攻	動物医科学コース	修士（動物医科学）または修士（畜産衛生学）※
	家畜生産科学コース	修士（農学）または修士（畜産衛生学）※
	環境生態学コース	
	食品科学コース	
	農業経済学コース	
	農業環境工学コース	
	植物生産科学コース	

※ 修士（畜産衛生学）については畜産衛生学位プログラムの修了者のみ選択可

5 長期履修制度について

長期履修制度は、職業を有するなどの事情により、標準修業年限を越えた一定の期間（4年以内）で計画的に教育課程を履修し課程を修了したい方に、標準修業年限の学費で、その長期の計画的な履修を認めるものです。

長期履修を希望する方は、あらかじめ主指導を希望する教員と相談の上、原則として入学手続き時に申請書を提出してください。

6 大学院畜産学研究科博士前期課程畜産科学専攻担当教員一覧

動物医科学コース

氏 名	職 名	研 究 分 野	
		名 称	内 容
△五十嵐 慎	教 授	獣医寄生虫学	原虫の宿主細胞内寄生機構に関する研究
△石 井 利 明	教 授	獣医薬理学	脳神経系における生理機能の発現や病態形成における分子機構の解明
△石 川 透	教 授	獣医生理学	上皮膜輸送に関与するイオンチャネルおよびトランスポーターの細胞内調節機構と構造機能連関
井 上 昇	教 授	獣医寄生虫学	1) 動物トリパノソーマ症の診断・治療・予防法の開発 2) 動物トリパノソーマ症の疫学調査 3) アフリカトリパノソーマの発育環進行に伴う細胞分化機構の研究
伊 藤 めぐみ	教 授	産業動物臨床学	乳牛・子牛の疾病予防に関する研究，早期診断および治療対処法に関する研究
上 村 暁 子	教 授	獣医外科学	1) 犬猫の軟部組織外科学 2) 犬猫の循環器学 3) 人工臓器・生体材料に関する研究
大 塚 浩 通	教 授	産業動物内科学	成牛と仔牛の免疫機能に関する研究
岡 村 雅 史	教 授	獣医細菌学	病原細菌の宿主特異性と組織指向性の解明
△河 津 信一郎	教 授	獣医寄生虫病学	寄生虫ゲノム・タンパク質機能情報に基づいた新たなワクチン・治療法・診断法の開発
久保田 彰	教 授	毒性学	人工化学物質の生体影響と作用機序に関する研究
古 林 与志安	教 授	獣医病理学	動物疾患の病理発生機序解明と診断法の確立
佐々木 基 樹	教 授	獣医解剖学	脊椎動物の機能形態学
佐々木 貴 正	教 授	食品安全	1) 農場から食卓までを一貫した微生物リスク管理 2) 畜産農場における薬剤耐性
白 藤 梨 可	教 授	獣医寄生虫学	1) マダニ生物学 2) マダニにおける原虫伝播機構
南 保 泰 雄	教 授	馬繁殖学	馬の臨床繁殖、繁殖生理および生殖補助医療に関する研究
西 川 義 文	教 授	獣医寄生虫病学	病原性原虫感染症の発症機序に関する研究
松 井 基 純	教 授	獣医臨床繁殖学	ウシの卵巣および子宮機能異常による繁殖障害の病態生理の解明
松 本 高太郎	教 授	獣医内科学	大動物の感染症の診断および治療に関する研究
室 井 喜 景	教 授	獣医薬理学	動物の行動制御に関わる神経機構に関する研究
山 田 学	教 授	獣医病理学	家畜疾患の病理発生機序解明と診断法の確立
横 山 直 明	教 授	獣医寄生虫病学	家畜原虫病の疫学調査及びその制御法の確立
相 川 知 宏	准教授	獣医細菌学	細胞侵入性細菌の宿主細胞内動態に関する研究
滄 木 孝 弘	准教授	予防獣医学	家畜生産に関わる疾病の予防法と早期検知法の開発
麻 田 正 仁	准教授	獣医寄生虫学	原虫の寄生機構に関する研究及び原虫病の疫学調査
岩 崎 遼 太	准教授	獣医腫瘍学	伴侶動物におけるがん転移の早期診断法および予防法の確立
上 川 昭 博	准教授	獣医生理学	乳腺機能に関する研究
茅 野 光 範	准教授	生物統計学	医学，農学に関する統計学と応用研究
近 藤 大 輔	准教授	獣医解剖学	脊椎動物の中樞神経系と嗅覚器の解剖組織学的研究
佐々木 瑞 希	准教授	感染症学	野生動物における病原微生物ならびに蠕虫類保有状況調査

佐 野 忠 士	准教授	獣医臨床麻酔学、獣医臨床疼痛管理学、伴侶動物救急医療	1) 各種麻酔薬・鎮静薬の組み合わせによる、効果的な周術期管理法の開発 2) ストレス管理・緩和法に関する研究
菅 沼 啓 輔	准教授	獣医寄生虫病学	1) 家畜衛生昆虫の生態学的研究 2) 家畜衛生昆虫および家畜衛生昆虫媒介性疾病制御法開発
武 田 洋 平	准教授	感染症学	ウイルス感染症制御に関する研究
羽 田 真 悟	准教授	獣医臨床繁殖学	ウシの繁殖障害の診断法と治療法、ウマの妊娠生理
渡 邊 謙 一	准教授	獣医病理学	動物疾病の病理診断、蛋白コンフォメーション病に関する研究

△印の教員は定年のため、指導可能期間が令和9年3月31日までとなりますので、入学後の指導体制について事前に相談してください。

家畜生産科学コース

氏 名	職 名	研 究 分 野	
		名 称	内 容
川 島 千 帆	教 授	家畜栄養学・繁殖学	1) 周産期の栄養代謝状態と繁殖機能に関する研究 2) 妊娠期の母体と胎子の栄養代謝に関する研究
草 場 信 之	教 授	家畜衛生学 予防獣医学	1) 家畜衛生学（子牛の管理、疾病予防および治療） 2) 乳房炎防除（予防と治療）
口 田 圭 吾	教 授	家畜育種学	肉用牛の客観的評価値をベースとした統計遺伝学
△手 塚 雅 文	教 授	生殖生理学	家畜の卵巣生理、卵子成熟、受精、胚発生に関する研究
撫 年 浩	教 授	家畜飼養学	肉用家畜の栄養生理と産肉形質との関係
西 田 武 弘	教 授	家畜飼養学	反芻家畜の栄養生理および飼料評価
萩 谷 功 一	教 授	家畜育種学	量的遺伝学を基礎とした乳用牛の遺伝的改良
Acosta Ayala Tomas Javier	准教授	家畜生産学・ 家畜防疫	家畜防疫学・現場における牛生産性効率の向上
後 藤 達 彦	准教授	家畜遺伝育種学	1) 多様なニワトリを用いた表現型の遺伝的基盤の解析 2) 鶏卵の成分に与える遺伝および環境要因の探索
瀬 尾 哲 也	准教授	家畜行動学・ アニマルウェルフェア	家畜の行動およびアニマルウェルフェアに関する研究
福 間 直 希	准教授	消化管微生物学 家畜栄養学	動物の健康や生産性に寄与する消化管微生物に関する研究
真 方 文 絵	准教授	家畜繁殖学	1) 高泌乳牛に多発する繁殖障害の病態解明 2) 受精卵移植技術の高度化によるウシの受胎性向上
松 長 延 吉	准教授	家畜生理学	成長に関する代謝ホルモン、血液中間代謝物
村 西 由 紀	准教授	家畜生体機能学	動物の発生生物学と細胞運命決定に関する研究
渡 部 浩 之	准教授	生殖工学・ 家畜繁殖学	生殖補助技術を用いた胚生産に関する研究

△印の教員は定年のため、指導可能期間が令和9年3月31日までとなりますので、入学後の指導体制について事前に相談してください。

環境生態学コース

氏 名	職 名	研 究 分 野	
		名 称	内 容
□ 押 田 龍 夫	教 授	野生動物学	哺乳類の生態学および系統地理学的研究
熊 野 了 州	教 授	昆虫生態学	昆虫の行動生態学および個体群生態学
赤 坂 卓 美	准教授	保全科学	開発からの自然生態系の保全と共存戦略の開発。外来種および鳥獣害に関する研究、および、生物多様性維持機構の解明に関する研究
浅 利 裕 伸	准教授	野生動物管理学	開発による野生動物への影響と保全、獣害、樹上性哺乳類の生態に関する研究
川 村 健 介	准教授	草地生態学	草原・草地の生態学、放牧管理、家畜行動学、リモートセンシング
橋 本 靖	准教授	菌類生態学	森林や農地における植物に共生するカビ・きのこ類の生態学的研究
山 内 健 生	准教授	昆虫分類学・衛生動物学	1) 昆虫標本を活用した分類学の研究 2) 衛生害虫に関する研究

□印の教員は定年のため、指導可能期間が令和10年3月31日までとなりますので、入学後の指導体制について事前に相談してください。

食品科学コース

氏 名	職 名	研 究 分 野	
		名 称	内 容
木 下 幹 朗	教 授	食品化学	食品成分中における機能性脂質の生化学的研究
島 田 謙一郎	教 授	食肉科学	食肉および食肉加工に関する応用研究
高 田 兼 則	教 授	食品科学	作物の加工適性に関する研究
福 田 健 二	教 授	酪農化学	乳成分および乳酸菌の機能性に関する研究
渡 辺 純	教 授	食品機能学	食品の健康機能性発現機構に関する研究
菅 原 雅 之	准教授	応用微生物学	醸造微生物と植物共生細菌に関する研究
橋 本 直 人	准教授	栄養生理学	胆汁酸代謝異常に関連した疾患およびポリフェノールの神経系を介した生理作用発現に関する研究
韓 圭 鎬	准教授	栄養機能科学	生物資源の健康機能性に関する研究
三 上 奈 々	准教授	食品科学	食肉科学、食品栄養に関する研究
山 下 慎 司	准教授	食品化学	食品成分中における脂質の機能性研究
永 田 龍 次	助 教	栄養機能科学	食品成分の健康機能性に関する研究
ペルポラゲ サマンティ	助 教	食品科学	デンプンの化学と生化学

農業経済学コース

氏 名	職 名	研 究 分 野	
		名 称	内 容
岩 本 博 幸	教 授	農業経済学	1) 農業環境の経済評価研究 2) 畜産業における外部不経済の内部化に関する研究 3) 地域資源評価に関する研究

耕 野 拓 一	教 授	農業経済学	1) 経済疫学, 2) 開発経済学, 3) 畜産開発と貧困削減
仙北谷 康	教 授	農業経済学	1) 農業経営のリスクマネジメント 2) フードシステムの比較構造分析
河 野 洋 一	准教授	農業経営学	1) 経営者能力 2) 意思決定情報解析 3) 伝統産業における経営戦略
窪 田 さと子	准教授	農業経済学	1) 食の安全の経済分析 2) リスクコミュニケーション
三 宅 俊 輔	准教授	農業経営学	1) 経営構造や経営管理の変化と経営への影響 2) 農業技術導入による経済性評価
森 岡 昌 子	助 教	農業経済学	1) 農業経済学 2) 開発経済学

農業環境工学コース

氏 名	職 名	研 究 分 野	
		名 称	内 容
宮 竹 史 仁	教 授	生物資源環境工学	堆肥化技術と堆肥利用に関する研究開発
宗 岡 寿 美	教 授	農業農村工学	1) 農林地流域の河川水質環境と土地利用評価 2) 斜面の保全と緑化工技術の応用
丸 藤 祐 仁	准教授	素粒子環境学・水蒸気災害学	1) 素粒子を用いた環境の研究 2) 水蒸気測定方法の開発と水蒸気災害予測に関する研究
木 村 賢 人	准教授	農業気象学	1) 雪氷冷熱を利用した農業施設に関する研究 2) 冷熱資源の分布特性とその利用適地に関する研究
中 島 直 久	准教授	応用生態工学	景観生態学における観測技術と種分布特性の研究
吉 川 琢 也	准教授	生物資源工学	バイオマスの成分分離と有効利用に関する研究とそのプロセス開発
藤 本 与	助 教	農業機械学	農業機械、トラクタ、作業機、大規模畑作、自動化・スマート化

植物生産科学コース

氏 名	職 名	研 究 分 野	
		名 称	内 容
大 西 一 光	教 授	植物育種学	作物の量的形質に関する遺伝育種学的研究
加 藤 清 明	教 授	植物分子育種学	植物育種における分子的基础と応用
谷 昌 幸	教 授	土壌学	農耕地における土壌肥沃度の評価と改善に関する研究
中 林 一 美	教 授	植物分子生理学	種子休眠・発芽の分子機構に関する研究
平 田 昌 弘	教 授	牧野生態学・文化人類学	1) 乾燥地での牧野生態系と環境保全の研究 2) 乾燥地での牧畜生産と乳文化論の研究
相 内 大 吾	准教授	応用昆虫学	病原体媒介性昆虫の防除研究
秋 本 正 博	准教授	作物学	食用作物、および飼料作物の栽培法の改善
春 日 純	准教授	植物生理学	植物の非生物ストレスへの適応機構
實 友 玲 奈	准教授	植物遺伝育種学	バレイショ遺伝資源の育種学的利用に関する研究

森 正 彦	准教授	植物生産学	作物の生理形態的特性に関する研究
ロメロ・イサミ	准教授	国際政治学・政治学	日本の食料外交に関する研究
浴 野 泰 甫	助 教	線虫学	線虫の生理生態に関する研究

出願書類の提出・問い合わせ先

〒080-8555 北海道帯広市稲田町西2線11番地
 帯広畜産大学 入試課入学試験係
 TEL 0155-49-5321（入学試験係直通）（月～金 8:30～17:15）
 E-mail nyushi@obihiro.ac.jp

帯広畜産大学ホームページのご案内

ホームページには、入試情報、各専攻の紹介、大学の概要等が載っています。
 アドレスは、次のとおりです。 <https://www.obihiro.ac.jp>